

公益財団法人 檜の芽会 御中

令和6年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

| | | | |
|--------------------------|-------------------|-----------|------|
| 【団体の概要】 | ① 作成日 | 令和7年2月17日 | |
| ② 法人・団体名 | 特定非営利活動法人こどもみらい食堂 | | |
| ③ 団体所在地 (都道府県・市町村名まで) | 新潟県長岡市学校町1-10-31 | | |
| ③ 責任者氏名 | 日吉 均子 | (役職名等) | 代表理事 |
| ④ 担当者氏名 | 日吉 均子 | (役職名等) | 代表理事 |

| | | | | | | |
|-----------------|------------------------------------|---------|-------|-------|----------|----|
| 【奨学活動の概要】 | ⑥助成交付決定番号 | R06-027 | ⑦助成金額 | 150万円 | ⑧申請カテゴリー | DS |
| ⑨奨学活動名 | すべてのこどもに学習の機会を！進学と人生の選択を！そして夢と希望を！ | | | | | |
| ⑩主な実施場所名・及びその住所 | こどもみらい食堂1階2階 新潟県長岡市学校町1-10-31 | | | | | |

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式3-2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

活動：① こどもの貧困の解消にむけた教育の機会の支援として居場所型の無料学習会を開催。

② 経済格差による体験の機会の格差解消にむけた体験の機会の支援活動やイベントを開催。

③ 地域共生社会を目指して多世代交流のこども食堂やコミュニティカフェを開催。

④ 長期休みには4大学1高専との共催し体験型のイベントを実施。畑づくり体験や、チャリティコンサート開催するなど、体験の機会の支援も提供。三者面談や保護者相談支援も開催。

⑤ 啓発活動として“こどものみらい地域共生フォーラム2024”を地元企業協賛のもと開催。公財檜の芽会の後援を受ける。自主講演会を多数開催するなど、普及啓発活動に取り組んだ。

成果：本助成を受け「経済格差によるこどもの教育格差」「こどもの貧困」の解消を目指して居場所型の無料学習会を開催し、こどもたちの成績向上や高校生の大学合格、中学生のすべり止め合格（2月中旬仮報告時現在）など成果が見られた。不登校のこどもの相談件数や参加も増え、親同士の口コミで新たな参加希望者が増加。フォーラムには高校生ボランティアが社会的課題に関心を持ち参加。畑体験では親から「貴重な経験ができた」「こういった活動を継続してほしい」等多数の声が寄せられた。本年初めて児童相談所からの連携相談もあり、今後地域と連携した包括的なこども支援の重要性が更に高まっている。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式3-2等でご報告願います。）

| 支援対象 | 延べ人数 (A：人) | 平均時間 (B：時間) | 活動量 (A×B) | 備考・補足・計算根拠等 |
|--------|---------------|----------------|--------------|-----------------------|
| 中学生等 | 2924 | 3 | 8772 | 平均18人程×学習会138回 |
| 高校生等 | 730 | 3 | 2190 | 平均4人強×学習会138回 |
| 大学生等 | 1088 | 3 | 3264 | 平均6人強×学習会138回 |
| 学習支援員等 | 1194 | 4 | 4776 | 平均6人強スタッフ×学習会138回 |
| 合計 | | | 19,002 | 年間集計表より（2月17日時点での見込み） |

⑬その他の定量的な数値（任意）

令和6年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：すべてのこどもに学習の機会を！進学と人生の選択を！そして夢と希望を！

法人・団体名：特定非営利活動法人こどもみらい食堂

作成者 氏名： 代表理事 日吉均子

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

(1) 取り組んだ課題

経済格差による教育格差が広がる中、学習の機会や経験の機会を喪失しているこどもたちが多く存在している。特に学習の遅れや不登校の増加、家庭の経済的事情による進学の断念、中退、社会との繋がり希薄化が深刻な課題となっている。また保護者自身も子育ての悩みを抱えながらも、情報格差や孤立しやすい状況にあり、こどもたちの成長を支える地域の繋がりが十分に機能していない。

(2) 実践した目的

すべてのこどもたちが学習の機会を得られ、将来の可能性を広げられる環境を整えていくことを目的としている。加えて、地域の中で学習支援の担い手を増やし、こどもと保護者を支える包括的な支援体制を構築することを目指している。学習支援だけでなく、経験の機会や地域との交流を通じて、こどもたちが学ぶ意欲を持ち続けられる環境をつくることも重視した。

(3) 実施内容

本助成にて実施した事業

- ①居場所型の無料学習支援の実施
- ②経験の機会の喪失への支援活動を実施
- ③普及啓発活動の推進

本助成以外にて実施した事業

- ④多世代交流の居場所づくりを運営
- ⑤地域共生社会をめざした地域連携の強化

2. 実施した奨学活動の詳細

(1) 居場所型の無料学習支援を実施

- 生活保護世帯、ひとり親世帯、外国籍ルーツのこども、多子世帯、発達障害・知的障害のあるこども、不登校のこどもなど、多様かつ重層的に困難を抱えるこどもたちを対象に学習支援を実施
- 経済的に厳しい家庭のこどもたちを主な対象に、定期的な学習支援と、定期テスト前や受験前など毎日補習する学習支援を実施。こどもたちの成績管理と模試による個別に対応した弱点の洗い出しと強化プログラムの実施。
- 学習の遅れを取り戻し、進学・進級をサポート。
- こどもの送迎時のタイミングで保護者と話す非構造化面接、こどもとの二者面談や保護者も交えた三者面談など構造化面接を随時実施。保護者に伴走したこども支援。
- 不登校の中学生高校生も安心して学べる居場所を整備し提供。
学習支援開催時と木曜日午前からお昼まで開催。(中学生・高校生)
能登被災地へのボランティア活動。(高校生)

—開催回数と学習支援対象の中高校生参加人数

7月17回 281人、8月22回 394人、9月12回 561人、
10月14回 357人、11月25回 442人、12月20回 463
人、1月13回 356人、2月18回 400人見込み、3月19回
400人見込み 合計138回延べ人数 3654人

—学習支援員

学習支援員については、市社会福祉協議会や専門学校、各
高校、各大学や大学教授を通じて、チラシやポスターを施
設内に設置。またSNSにおいてもボランティア募集を周知
した。またボランティア向けにコンプライアンス研修を開
催、コンプライアンスシート配布、ボランティア向け小冊
子の配布する等、生徒への接し方、こどもの取り巻く環境
など実践における注意点を指導。

また、本助成より学習支援のための非常勤職員として1人有資格者を雇用。

高校生は、市社会福祉協議会による高校生ボランティア講座を受講。

高校生ボランティア：県立長岡高校、県立大手高校、県立向陵高校、県立商業高校、私立帝京高校
私立中越高校

大学生ボランティア：国立新潟大学、国立長岡技術科学大学、市立長岡造形大学、私立長岡崇徳大
学、私立長岡大学

専門学校生ボランティア：国立長岡工業高等専門学校、長岡公務員・情報ビジネス専門学校、長岡
こども・医療・介護専門学校、長岡こども福祉カレッジ、北陸福祉保育専門
学校



(2) 経験の機会の喪失への支援活動を実施

—主な対象である中学生に向け、長期休みや休日に4大学1高専と連携し学びと体験の機会を提供。

—2024年度から長岡市技術科学大学産学連携・研究推進課 地域共創室 COI-NEXT研究室と連携
し、無農薬農業にAI技術やロボットを活用する環境システムに注目した畑づくりイベントを開催。

—持続可能な10年後・20年後の新潟のまちづくりを共に考える機会を提供。

—開催回数と参加人数 7回、延べ人数 145人

(3) 普及啓発活動の推進

—大学ゼミでの講義や長岡市主催のフォーラムへの登壇を通じ、こどもの貧困問題への理解を広げる。

—「こどものみらい地域共生フォーラム」を初開催し、企業・団体との協力体制を構築。

講演会やフォーラムの実施と日時、参加人数

基調講演会：2024年9月15日(日) 13:00~16:40

講 師：NPO法人さいたまユースサポートネット代表
全国子どもの貧困・教育支援団体協議会代表
青砥 恭 氏

事例紹介講師：認定NPO法人キッズドア 櫻井 優樹氏
NPO法人こどもみらい食堂 日吉 真実

参加者延べ人数：143人

—協賛企業・団体：15社

NPO法人市民協働ネットワーク長岡、オイシックス・ラ・大地株式会社、(株)ピーコック、



連合新潟中越地区協議会、ニューボーンフォト、レブロン、国際ソロプチミスト長岡、
こども mirai 研究会、長岡地区労働者福祉協議会、HAL ミーツゴスペル、坂内住建、ぶどうの木
きもの処星ごん、あずみのかいの、フェアトレードらなぶう

一名義後援企業団体：14 社

(公財) 榎の芽会、(公財) 長岡市スポーツ協会、(社福) 長岡市社会福祉協議会、新潟日報社
読売新聞東京本社新潟支局、長岡こども・地域食堂ネットワーク、オイシックス・ラ・大地 (株)
FM ながおか 80.7、オイシックス新潟アルビレックス BC、こども mirai 研究会、NPO 法人市民協
働ネットワーク、長岡市健康体力づくり指導者会、

一協力企業・団体：6 団体

長岡大学経済経営学部米山宗久教授、新潟県立大学人間生活学部こども学科小池由佳教授・小澤薫
准教授、認定 N P O 法人キッズドア、全国子どもの貧困・教育支援団体協議会、Green Works 松
岡達英、新潟県内無料学習支援団体ネットワーク、

一周知の方法：フライヤー配布・設置、SNS、新潟日報紙面掲載 (2024.8.27/2024.9.21)

(4) 多世代交流の居場所づくりを運営。

一こども食堂やコミュニティカフェを通じ地元の学生や地域のこどもから高齢者までの繋がり強化
開催回数および参加人数 (2 月 20 日時点見込み)：こども食堂：22 回、約 4400 人、コミュニティ
カフェ：45 回、約 420 人

一長岡市社会福祉協議会ボランティア大学出身のボランティア、新潟県社会福祉協議会シニアカレッ
ジ出身のボランティア、市内高校、4 大学 1 高専と連携し、ボランティアによる事業を展開。

一孤立しがちな家庭に対し、地域ぐるみでこどもから高齢者まで守る地域共生な居場所を提供。

(5) 地域連携の強化

一児童相談所からの支援相談の受け入れなど連携を開始。

一親同士の口コミで参加希望者が増加し、支援が広がる。

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

本助成活動による取り組みを通じ、以下の成果が得られた。

(1) 学習支援の成果

- ・参加したこどもたちの成績が向上した。
- ・中学 3 年のときに高校に進学できないかもしれなかった子が、高校 3 年生になり、志望大学に合格し、夢の実現にむけて一歩前進した。
- ・中学生は滑り止めの高校に全員合格し、本命の高校合格に向けて努力を継続中。
- ・不登校のこどもの相談件数と参加が増え、安心して学べる場として認識されている。
- ・キャリアアップ講習会を開催し、大学生ボランティアが自身の進学経験や夢を語る場を提供。こどもたち自身の進学や将来の夢について具体的に考える機会となり、多くの中高生が刺激を受けて、進路選択の幅が広がっている。

(2) 経験の喪失への支援の成果

- ・長岡技術科学大学 COI-NEXT 研究室と連携し、AI 技術やロボットを活用した無農薬農業の実践を通じて、こどもたちに持続可能な未来を考える機会を提供した。
- ・長岡技術科学大学との連携イベントを通じ、親子から貴重な経験を得たとの感想が多数寄せられた。

普及啓発活動の成果

- ・「こどものみらい地域共生フォーラム 2024」の開催と、基調講演『こどもの困難に地域はどう向き合うか』が地元新聞に掲載され、地域住民の地域共生社会への関心が高まった。
- ・こどもの貧困問題に関心を持つ高校生がフォーラムに参加し、社会的課題への意識が向上した。
- ・長岡市の生活支援課から連携依頼があり、「長岡市住宅対策委員」として、生活保護世帯の住宅支援や公営住宅と貧困、高齢化の問題への取り組みに携わることになった。
- ・「こどもの貧困対策連絡会議」の委員を継続し、市教育委員会主催の会議に出席し、関係機関・教育機関との連携を深めた。
- ・児童相談所から支援連携の相談を受ける等今後の連携が進展。
- ・社会貢献活動をした団体に贈られる「第四北越銀行賞」を受賞し、新聞に掲載された。



(3) 多世代交流の居場所づくりの成果

- ・こども食堂やコミュニティカフェが、地域の繋がりを深める場として機能。
- ・高校生・大学生・シニアボランティアが活動し、世代を超えた支援の輪、共助互助の輪が広がっている。
- ・参加する親同士の口コミで新たな参加希望者が増えている。
- ・長岡市社会福祉協議会主催の「ボランティア大学」や、新潟県社会福祉協議会主催の「シニアカレッジ」に講師として招かれ、社会人やアクティブシニアのボランティアと連携を強化。



反省点・課題について

(1) 支援の拡がりに対する人的リソースの不足

- ・学習支援のニーズが増加する一方で、ボランティアの人数が変則的でマンツーマンの対応が難しくなる場面もあった。ボランティアの継続的な確保や、支援者のスキル向上が必要
- ・加入時における支援対象指標を今後の活動のためにも策定する必要がある

(2) 体験活動や4大学1高専とのイベント活動の機会の充実

- ・長岡技科大との実践的な学びの機会はこどもたちの体験の機会の喪失への支援や進学選択の幅を拡げる点において有意義だったが、長岡技科大の研究が何を目的としているのか、研究されている先端技術科学が日本や地域の何に役に立っていくのか等、より多様で充実した学びと体験を提供する必要がある。

(3) 地域連携のさらなる強化

- ・社会福祉協議会や児童相談所など連携が進んだところもあるが、市教育委員会などより多くの専門機関との連携協力体制を築く必要がある。
- ・問題を抱える家族へのアプローチ方法についてさらなる工夫が求められる。
- ・地域から信用に足りるよう、財務基盤、ガバナンスを更に整備していく必要がある。

本助成を通じた活動の今後の発展性について

(1) 支援者の育成とボランティアの拡充

- ・学生ボランティアの活動をさらに促進するため、地域全体で支える体制を長岡市社会福祉協議会ボランティアセンターと協力して、学生ボランティアのボランティアバンクを構築し、支援者育成のボランティア研修を実施し、支援の担い手や拠点を増やすことを目指す。

(2) 4大学1高専や地元企業・団体との連携し、キャリアアップ講座の拡充

- ・大学生ボランティアによる進学体験談を活かし「高校進学するとき」「大学生になるまでの歩み」「大学での学び」「これからの夢」について語るキャリアアップイベントを継続。
- ・長岡技術科学大学 COI-NEXT 研究室から研究者を招き、長岡技術科学大学の研究内容やビジョンをこどもたちに伝えるキャリアアップ講座を企画。
- ・地域企業と連携し、NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」のような形式で、企業人が自身の人生ストーリーや夢を語るキャリアアップ講座を企画。

(3) 地域共生のためのネットワーク拡大

- ・4大学1高専との連携をさらに深め、高校の授業の一環として、大学のゼミの一環として、学生が実践的な学びを深める場を増やす。
- ・自治体・企業・NPOなどと協力関係を強化し、より包括的な支援を実施する。
- ・「こどものみらい地域共生フォーラム 2025」を継続開催し、普及啓発活動を更に拡げる。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

（エピソード）小学校で勉強が嫌いだったシングルマザーの二人の兄妹が来た。勉強も嫌い、人と話すのも嫌い、ボードゲームも負けるのが嫌でやらない、といていた子たちだが、居場所にくるようになって少しずつ遊んだり話したり周りの先輩と混じって勉強するようになり、今では学習支援の中心的な存在として後輩に声をかけたり一生懸命勉強して高校進学をめざしている。

（思い）本学習支援でサポートできるこどもの数は長岡市内で困っているとされているこどもの極一部でしかない。本来こういう活動が市内の至る処で実施されることが期待し必要とされていると思う。しかし、少数であったとしても一人のこどもの未来への選択が広がっていくことはそのこどもやその家族の未来が広がるだけでなく、そのこどもが関わるであろう人々や地域の未来を変える力を持っている。今後もわたしたちは一人でも多くのこどもの未来が開かれ広げられていることを願って活動を続けていきたい。本活動はわたしたちの町の未来をつくる活動だと思う。

5. 学識者からのご意見、コメント、等（申請カテゴリーにて「S」が付されている団体）

少子高齢化、人口減少、地域交流の希薄化などにより、「共に生きるという意識」や「つながり」も少なくなってきました。本フォーラムのテーマでもある「地域共生」で未来のある子どもたち、また次代を支える子どもたちを支えてあげる必要があります。

元宮城教育大学 菅野仁（かんの ひとし）副学長が以下のようなことをおっしゃっています。

「物理的に「つながり」が可能になったいま、人々の心を占拠しているのは“つながっていないことへの不安”だ。貨幣を媒介に生活が成り立つようになった現代社会では、お金さえあれば一人で生きることも可能である。だが、一人で生きられるからといって他者からの承認欲求がなくなったわけではない。人はやっぱり他人と交流し、認められることに幸せを見出す。」

自由が尊重される現代ですが、安心・安全・信頼は、「つながり」があってこそ、得られるものと感じております。こどもたちも、自分を肯定したい、肯定されたい気持ちをたくさん持っていると思います。

長岡大学 経済経営学部 教授 米山 宗久